

やまとの環境

概要版

— 環境基本計画年次報告書 —
平成30年度版（平成29年度実績報告）



大 和 市

やまとの環境（大和市環境基本計画年次報告書）について

やまとの望ましい環境像、「自然の恵みを取り入れた、健康に生活できる、一生を安心して暮らせるふるさと」の実現のために、大和市では平成10年度に環境基本計画を策定しました。平成19年度には、目標設定水準や施策の見直し、とりわけ地球温暖化対策の推進などを踏まえ、改定しました。

本計画では、目標の達成度や、施策の進行状況を定期的に把握・評価し、必要に応じて見直しや修正を行います。このことから、やまとの環境の現況と、環境基本計画に基づく施策の進行状況等を明らかにするため、ここに年次報告書として取りまとめ、公表することにより、情報の公開と共有を図るものです。

また、本計画では計画期間を平成29年度までとしていたことから、この10年間の目標の達成度や施策の進行状況について、評価を記載します。

自然の恵みを取り入れた、健康に生活できる、一生を安心して暮らせるふるさと

望ましい環境像の実現

<p>生活環境 健康に生活できる きれいなまち</p> <p>自然環境 人と自然が共生する うおいのあるまち</p> <p>都市環境 ゆとりとやすらぎの ある快適なまち</p> <p>地球環境 地球環境への負荷の 少ないまち</p> <p>循環 循環を基調とした社会 システムのあるまち</p> <p>学習・参加・協働 気づき知り環境を守る 市民の連帯のあるまち</p>	空気	深呼吸したくなるまち
	水	きれいな川のあるまち
	音	静けさを感じるまち
	美化	散乱ごみのないきれいなまち
	緑	緑豊かなまち
	生物	多様な生物とのふれあいのあるまち
	景観	魅力ある街並み
	安全	安心して生活できるまち
	産業	農・工・商の調和するまち
	基地	航空機騒音のないまち
	都市空間	都市空間のゆとりのあるまち
	地球環境	地球市民としての自覚を持って行動するまち
水循環	水との親しみのあるまち	
資源	物質循環のなされているまち	
エネルギー	エネルギーを有効に利用するまち	
資源	環境にやさしい市民のまち	

《指標項目についての進捗状況の一覧》

- 目標値は概ね平成29年度のものです。
- 達成度 ○：目標を達成している
△：目標は達成していないが、前年度と同水準又は目標に近づいている
×：目標から遠ざかっている

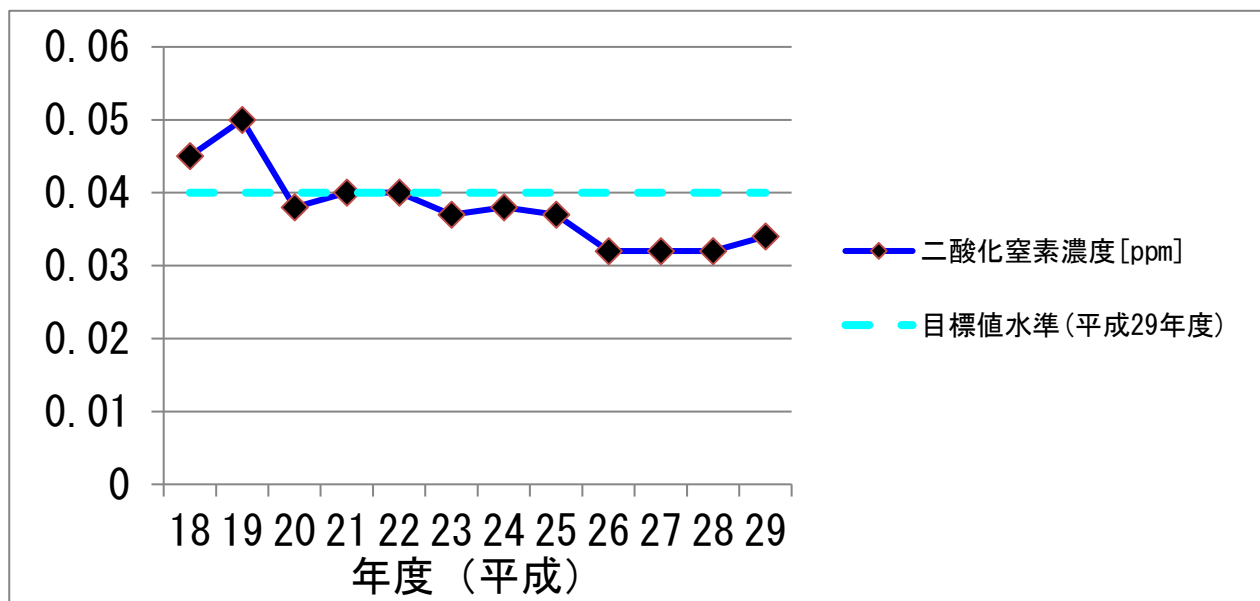
各環境要素の評価一覧

環境要素	指標項目	現況値及び目標値	H28年度数値	H29年度数値	達成度
①空気	二酸化窒素濃度	18年値 0.045ppm	0.032ppm	0.034ppm	○
		目標値 0.04ppm以下			
②水	BOD (生物化学的酸素要求量)	18年値 境川 2.5mg/1 引地川 1.5mg/1	境川 1.6mg/1 引地川 1.4 mg/1	境川 1.5mg/1 引地川 0.8mg/1	○
		目標値 境川 3.0mg/1以下 引地川 2.0mg/1以下			
③音	騒音に係る環境基準の達成率	18年値 17%	50%	66%	△
		目標値 100%			
④美化	「美化」に関する環境が良いと思う市民の割合	19年値 10%	市民 24% 事業者 24%	市民 23% 事業者 18%	×
		目標値 25%			
⑤緑	緑地率	18年値 18.0%	16.2%	16.1%	×
		目標値 20%			
⑥生物	「生物」に関する環境が良いと思う市民の割合	19年値 21%	市民 38% 事業者 27%	市民 33% 事業者 28%	×
		目標値 45%			
⑦景観	「景観」に関する環境が良いと思う市民の割合	18年値 生息を確認	生息を確認	生息を確認	生息を確認
		目標値 生息を確認			
⑧安全	各環境中の基準濃度を超過した有害化学物質数	18年値 4種類	3種類	2種類	△
		目標値 0種類			
⑨産業	環境マネジメントシステム導入事業所数	18年値 56事業所	40事業所	40事業所	×
		目標値 300事業所			
⑩基地	航空機騒音に係る環境基準の達成率	18年値 0%	0%	0%	×
		目標値 100%			
⑪都市空間	一人当たりの都市公園等面積	18年値 5.89㎡	6.63㎡	6.65㎡	△
		目標値 6.8㎡			
⑫地球環境	二酸化炭素の排出量	18年値 23.6万t-C	22.6万t-C	23.0万t-C	×
		目標値 17.3万t-C			
⑬水循環	河川流量	18年値 境川 2.45 m³/秒 引地川 0.78 m³/秒	境川 1.59 m³/秒 引地川 0.40 m³/秒	境川 1.42 m³/秒 引地川 0.31 m³/秒	×
		目標値 境川 3.5 m³/秒 引地川 1.0 m³/秒			
⑭資源	雨水貯留槽購入費補助申請件数の累計	18年値 159件(基)	428件(件)	439(件)	△
		目標値 500件(基)			
⑮エネルギー	資源化率	18年値 22.9%	26.7%	27.8%	△
		目標値 32.1%			
⑯学習・参加・協働	市民一人一日当たりごみ排出量	18年値 529g	435g	424g	△
		目標値 412g			
⑰学習・参加・協働	公共施設における再生可能エネルギー利用設備の導入数	19年値 7施設	31施設	33施設	△
		目標値 全施設			
⑱学習・参加・協働	やまとみどりの学校プログラムへの参加校	18年値 23校	28校	28校	○
		目標値 市内全校			
⑳学習・参加・協働	環境保全に取り組む人達が多いと感じる市民の割合	19年値 19%	市民 18% 事業者 16%	市民 20% 事業者 15%	△
		目標値 前年度より高い割合			

環境要素 1：空気

目標：深呼吸したくなるまち

全体の数値目標：二酸化窒素濃度 0.04ppm



《本年度》

【評価】 目標を達成した

【評価の理由】 二酸化窒素濃度が目標値を下回ったため

【目標の確認のための取組】 常時監視測定局の大和市役所における二酸化窒素濃度年間98%値(環境基準)の経年変化を測定

項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	目標値
二酸化窒素濃度[ppm]	0.037	0.032	0.032	0.032	0.034	0.04

【「市の役割」の状況】

◎到達目標以上に進んだ取組の数 : 1 ○到達目標どおりに進んだ取組の数 : 19

△到達目標に届かなかった取組の数 : 0 -その他の状況の取組の数 : 2

《平成29年度の取組事例》

- ・上草柳トラックステーションにおいて、7、2月の月に4回ずつアイドリングストップ調査を実施し、11月にはステッカーの配布により、啓発活動を実施した。また、開発協議37件の駐車場管理者に対し、アイドリングストップの周知を指導した。(○)
- ・神奈川県生活環境の保全等に関する条例に基づく許可申請時や、解体工事に伴う特定建設作業の届出時において悪臭・粉じん防止対策等について指導した。また、悪臭・粉じん苦情に対し、事業者を指導した。(○)

《計画期間》

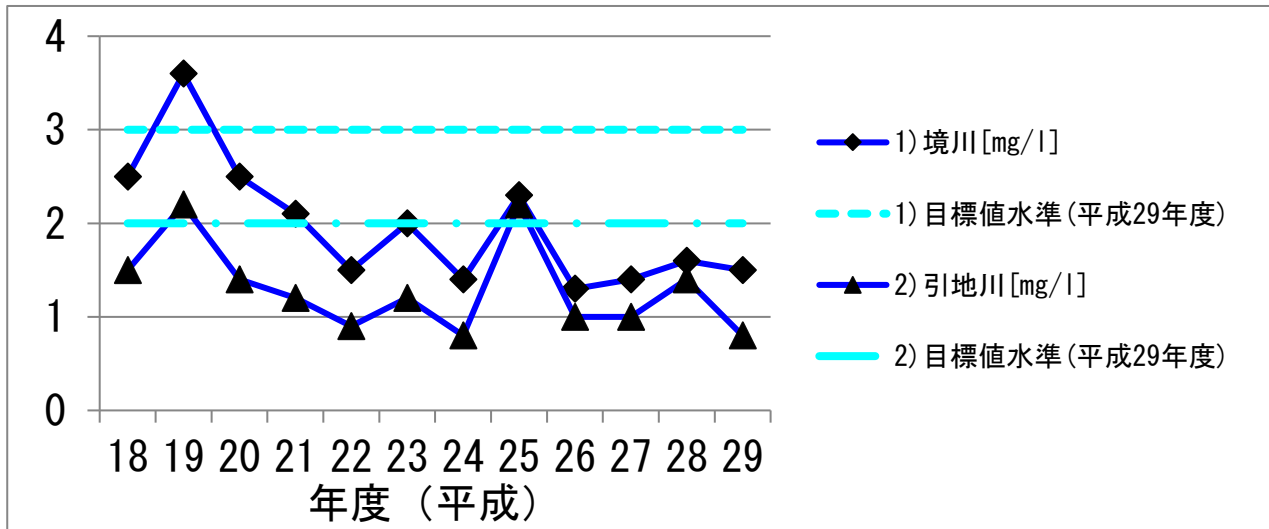
【評価】 「二酸化窒素濃度」については期間を通じて目標を達成できたほか、トラックステーションでのアイドリングストップ調査・啓発活動の実施や、悪臭・粉じん苦情に対する事業者への指導を行うなど、施策を推進した

環境要素 2：水

目標：きれいな川のあるまち

全体の数値目標：BOD(生物化学的酸素要求量)

境川 3.0mg/l 以下 引地川 2.0mg/l 以下



《本年度》

【評価】 目標を達成した

【評価の理由】 BODが基準値以下になり目標を達成したため

【目標の確認のための取組】 河川の水質測定

項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	目標値
境川[mg/l]	2.3	1.3	1.4	1.6	1.5	3.0
引地川[mg/l]	2.2	1.0	1.0	1.4	0.8	2.0

【「市の役割」の状況】

◎到達目標以上に進んだ取組の数 : 0 ○到達目標どおりに進んだ取組の数 : 15

△到達目標に届かなかった取組の数 : 0 -その他の状況の取組の数 : 0

《平成29年度の取組事例》

- ・水質汚濁防止法及び神奈川県生活環境の保全等に関する条例に基づき、のべ60事業所について立入調査を行い、27件について水質検査を実施した。(○)
- ・下水道出前授業(実施校20校)、下水道ポスター展の開催し、下水道に関するイベントや学校教育等により、生活排水と下水道の役割についての意識啓発を進めた。(○)

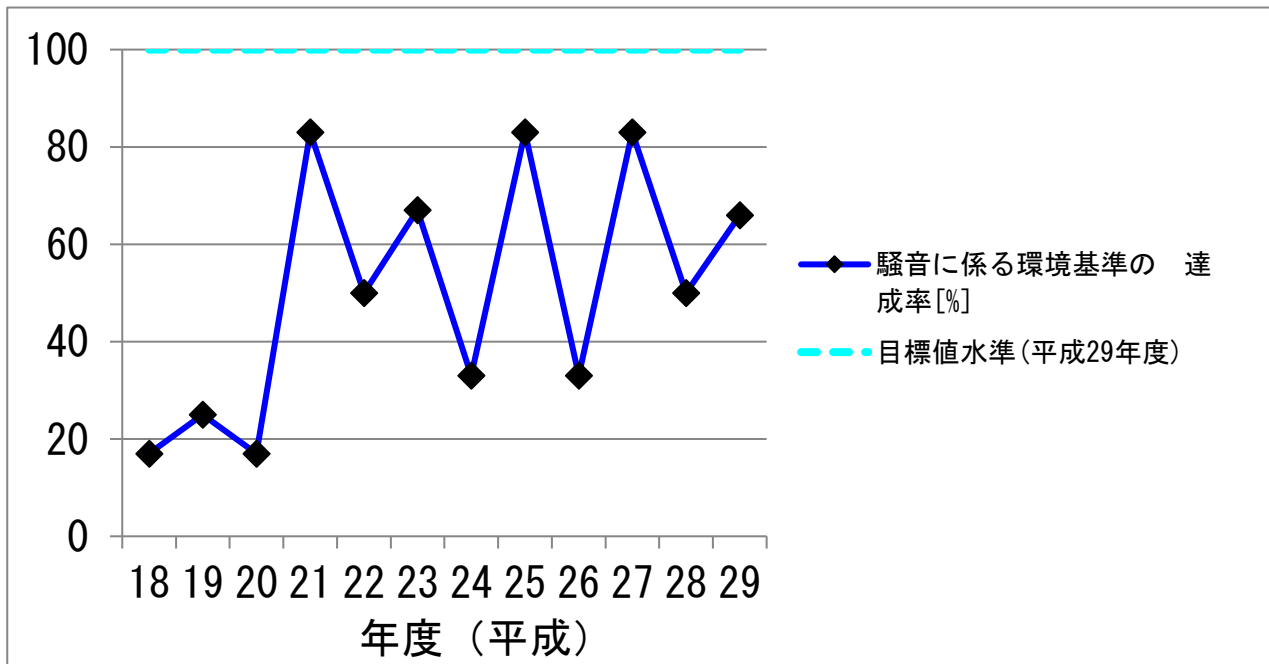
《計画期間》

【評価】「BOD」については引地川で1年度だけ目標値水準を超えてしまったものの全体としては目標を達成できていた。また、事業所に対する水質検査の実施や下水道に関する意識啓発活動の開催等により、きれいな川のあるまちづくりに取り組んだ

環境要素 3：音

目標：静けさを感じるまち

全体の数値目標：騒音に係る環境基準の達成率 100%



《本年度》

【評価】昨年度よりやや目標に近づいた

【評価の理由】環境基準を満足している地点数が増加したため

【目標の確認のための取組】幹線交通を担う道路における騒音測定

項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	目標値
騒音に係る環境基準の達成率[%]	83	33	83	50	66	100

【「市の役割」の状況】

◎到達目標以上に進んだ取組の数 : 0 ○到達目標どおりに進んだ取組の数 : 13

△到達目標に届かなかった取組の数 : 0 -その他の状況の取組の数 : 1

《平成29年度の取組事例》

- ・神奈川県生活環境の保全等に関する条例に基づく許可申請時等において、事業者に対し騒音・振動防止対策を指導した。また、工場・事業場から発生した騒音・振動苦情26件について事業者に指導を行った。(○)
- ・建設作業に伴う騒音・振動苦情19件について実態を調査し、事業者を指導した。(○)
- ・啓発用リーフレットやホームページ等により、自動車利用者への意識啓発を図った。(○)

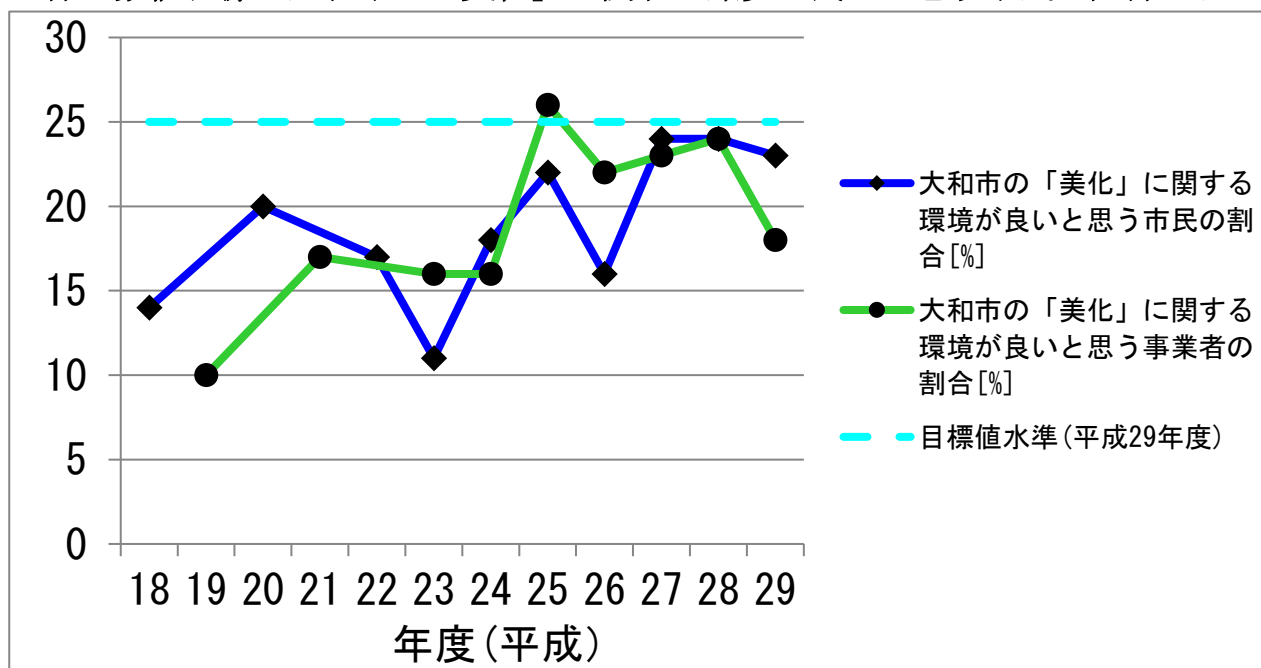
《計画期間》

【評価】「幹線交通を担う道路における騒音測定」の調査結果は、年度によってばらつきが大きく、目標を達成できなかったが、騒音・振動苦情に対する事業者への指導や自動車利用者への意識啓発を行うなど、改善に取り組んだ

環境要素 4：美化

目標：散乱ごみのないきれいなまち

全体の数値目標：大和市の「美化」に関する環境が良いと思う市民の割合 25%



《本年度》

【評価】昨年度よりやや目標から遠ざかった

【評価の理由】市民、事業者ともに美化に関する環境が良いと思う割合が減少したため

【目標の確認のための取組】市民・事業者アンケートの実施

項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	目標値
大和市の「美化」に関する環境が良いと思う市民の割合[%]	22	16	24	24	23	25
大和市の「美化」に関する環境が良いと思う事業所の割合[%]	26	22	23	24	18	25

【「市の役割」の状況】

◎到達目標以上に進んだ取組の数 : 0 ○到達目標どおりに進んだ取組の数 : 14

△到達目標に届かなかった取組の数 : 0 -その他の状況の取組の数 : 0

《平成29年度の取組事例》

- ・不法投棄防止の啓発看板等の作成やパトロールを行うとともに、ボランティア袋を市民に配布し散乱ごみや不法投棄防止のための意識啓発を行った。(○)
- ・年間クリーンキャンペーンとして、清掃の日、例月まち並み清掃、美化推進月間クリーンキャンペーンを実施し、美化活動を行った。(○)

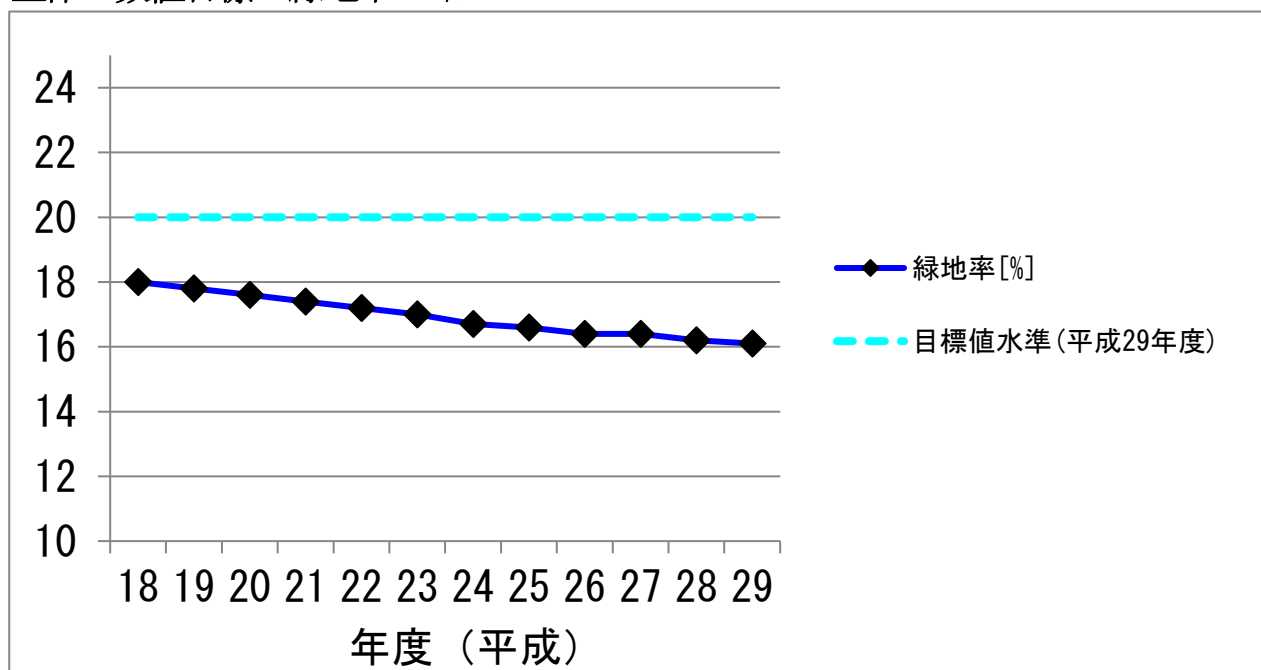
《計画期間》

【評価】アンケート「大和市の『美化』に関する環境が良いと思う市民の割合」については上昇傾向にあるものの目標を達成できなかったが、不法投棄防止の各種取組みや清掃の日等のクリーンキャンペーンを継続的に実施するなど、改善に取り組んだ

環境要素 5：緑

目標：緑豊かなまち

全体の数値目標：緑地率 20%



《本年度》

【評価】 目標値を達成できなかった

【評価の理由】 宅地化の進展により、僅かずつ緑地の減少が続いているため

【目標の確認のための取組】 固定資産税統計表により緑の割合を把握

項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	目標値
緑地率[%]	16.6	16.4	16.4	16.2	16.1	20.0

【「市の役割」の状況】

◎到達目標以上に進んだ取組の数 : 0 ○到達目標どおりに進んだ取組の数 : 15

△到達目標に届かなかった取組の数 : 3 -その他の状況の取組の数 : 1

《平成29年度の取組事例》

- ・緑のカーテン作り方教室を開催し、参加者へ緑化資材を配布した。(○)
- ・住宅地における接道部緑化（生垣等設置）に対して助成を行った。(○)
- ・公園が所在する自治会に、自主的な緑化活動グループの設置を働きかけ、より良い支援活動を実施できるよう努めた。(○)

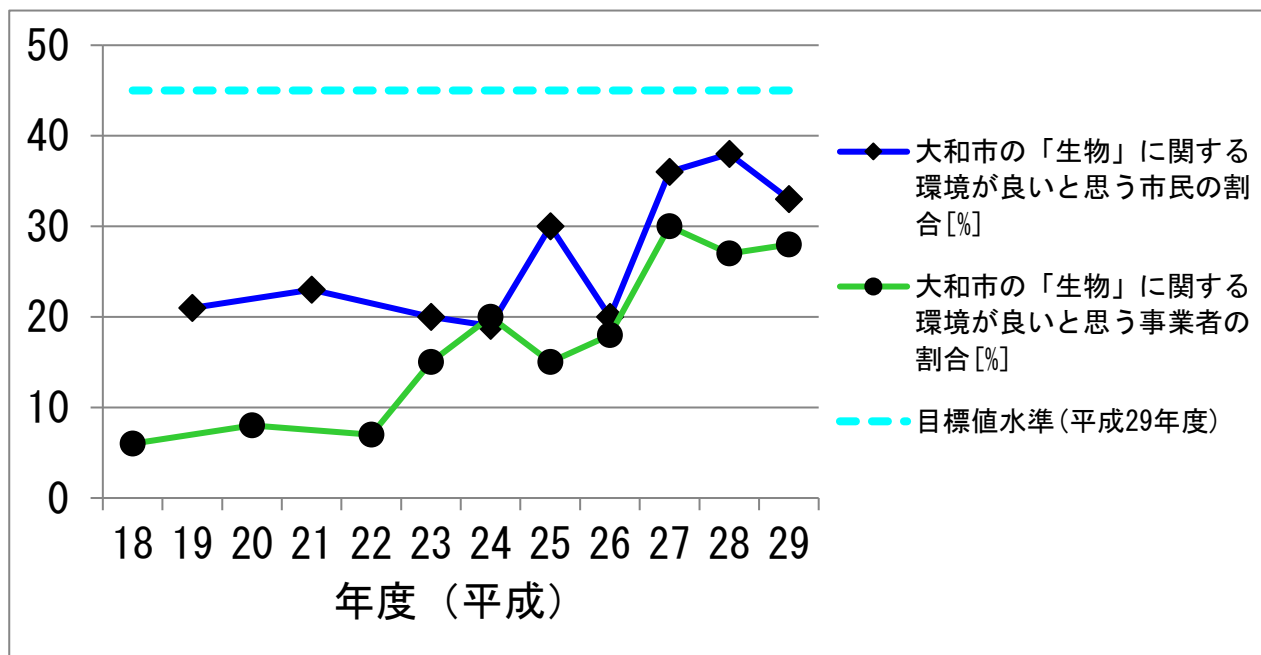
《計画期間》

【評価】 宅地化の進展により緑地は減少し、「緑地率」は目標を達成できなかったが、山林所有者と保全緑地契約を締結するなど緑を残す取組みを継続して行った

環境要素 6：生物

目標：多様な生物とのふれあいのあるまち

全体の数値目標：大和市の「生物」に関する環境が良いと思う市民の割合 45%



《本年度》

【評価】市民割合は、昨年度よりやや目標から遠ざかったが、事業者割合はやや目標に近づいた

【評価の理由】市民の「生物」に関する環境が良いと思う割合は目標から遠ざかったが、事業者は、目標に近づいたため

【目標の確認のための取組】市民・事業者アンケートの実施

項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	目標値
大和市の「生物」に関する環境が良いと思う市民の割合[%]	30	20	36	38	33	45
大和市の「生物」に関する環境が良いと思う事業者の割合[%]	15	18	30	27	28	45

全体の数値目標:市内でミンミンゼミの生息が継続的に確認されていること

《本年度》

【評価】目標を達成している

【評価の理由】例年同様にミンミンゼミが確認されている

【目標の確認のための取組】市民環境調査(セミのぬけがら調査)による調査

項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	目標値
市内でミンミンゼミの生息が継続的に確認されていること(○=確認できた)	○(3,212)	○(2,316)	○(3,355)	○(3,118)	○(1,308)	確認できた

※ () 内の数値は、ミンミンゼミの採集したぬけがらの数

【「市の役割」の状況】

◎到達目標以上に進んだ取組の数 : 0

○到達目標どおりに進んだ取組の数 : 9

△到達目標に届かなかった取組の数 : 0

—その他の状況の取組の数 : 0

《平成29年度の取組事例》

- ・市内に生息する野生動植物を調査する市民環境調査として、7月～9月にセミのぬけがら調査を実施し、ミンミンゼミ等の生息状況を把握した。(○)
- ・ホームページやリーフレット等を利用し、継続的に野生動植物保護に関する普及啓発を図った。(○)

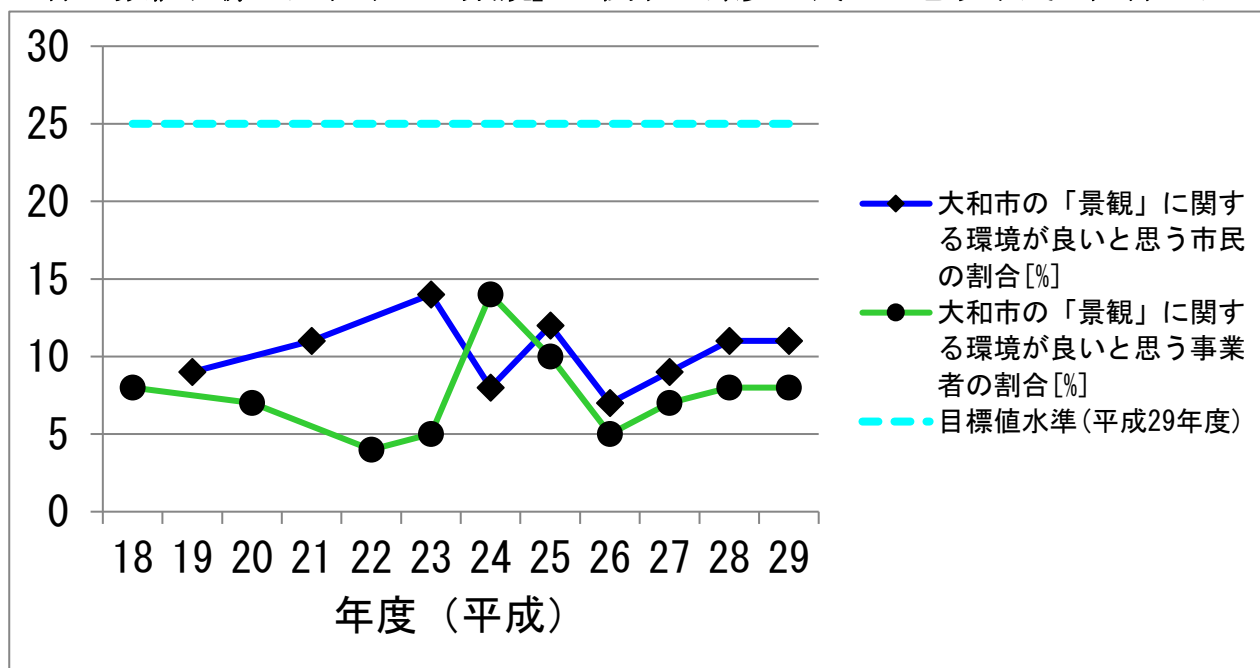
《計画期間》

【評価】アンケート「大和市の『生物』に関する環境が良いと思う市民の割合」については上昇傾向にあるものの目標を達成できなかったが、一方で「市内でミンミンゼミの生息が継続的に確認されていること」については毎年、生息を確認することができた。その他にも、外来種の捕獲を継続して行ったほか、「ツバメの巣」に関する市民環境調査事業を開催するなどした

環境要素 7：景観

目標：魅力ある街並み

全体の数値目標：大和市の「景観」に関する環境が良いと思う市民の割合 25%



《本年度》

【評価】昨年度と変わらない

【評価の理由】市民、事業者ともに「景観」に関する環境が良いと思う割合は変わらなかった

【目標の確認のための取組】市民・事業者アンケートの実施

項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	目標値
大和市の「景観」に関する環境が良いと思う市民の割合[%]	12	7	9	11	11	25
大和市の「景観」に関する環境が良いと思う事業者の割合[%]	10	5	7	8	8	25

【「市の役割」の状況】

◎到達目標以上に進んだ取組の数 : 0 ○到達目標どおりに進んだ取組の数 : 8

△到達目標に届かなかった取組の数 : 0 —その他の状況の取組の数 : 2

《平成29年度の取組事例》

- ・景観づくりに関する普及啓発を進めるため、街づくり学校の開催や街づくり賞を実施した。 (○)
- ・685㎡の用地を買収し、ゆとりある歩道の確保や、歩道と車道の区画部の改善を図った。 (○)

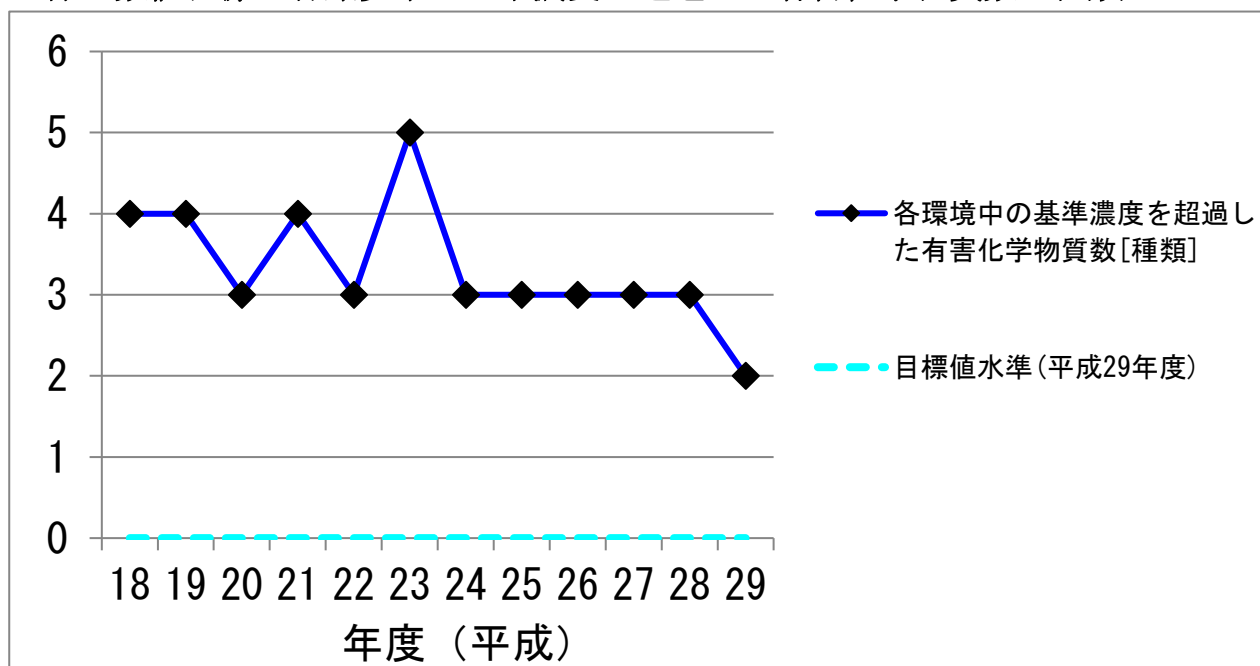
《計画期間》

【評価】アンケート「大和市の『景観』に関する環境が良いと思う市民の割合」については目標を達成できなかったが、景観づくりに関する普及啓発活動を開催し、用地買収によりゆとりある歩道の確保を進めるなど、改善に取り組んだ

環境要素 8：安全

目標：安心して生活できるまち

全体の数値目標：各環境中の基準濃度を超過した有害化学物質数 0 種類



《本年度》

【評価】昨年度よりやや目標に近づいた

【評価の理由】有害物質数が昨年度と比較し減少したため。

【目標の確認のための取組】各環境中の基準濃度と超過した有害化学物質数の測定

項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	目標値
各環境中の基準濃度を超過した有害化学物質数種類	3	3	3	3	2	0

【「市の役割」の状況】

◎到達目標以上に進んだ取組の数 : 0 ○到達目標どおりに進んだ取組の数 : 21

△到達目標に届かなかった取組の数 : 2 —その他の状況の取組の数 : 1

《平成29年度の取組事例》

- ・19事業所について立入調査を実施し、化学物質に対する情報提供や、使用者に対する調査を実施した。(○)
- ・大気1地点(年2回)、河川(水、底質)、土壌のダイオキシン類濃度測定を実施した。(○)

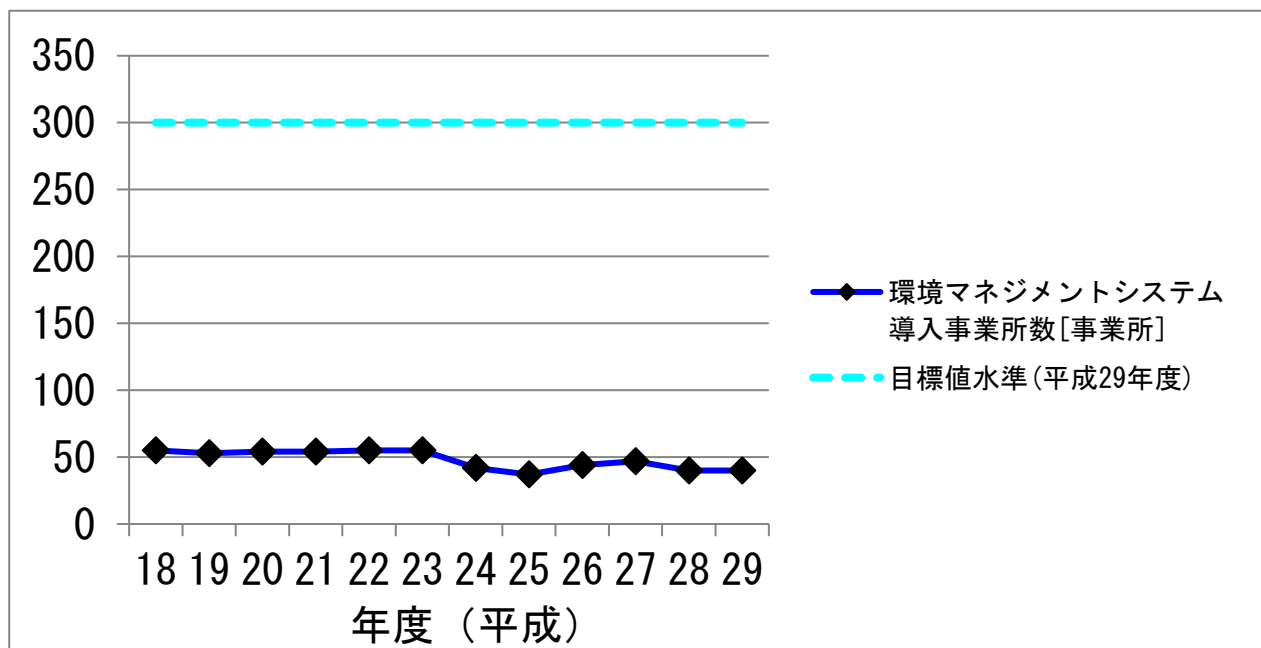
《計画期間》

【評価】「各環境中の基準濃度を超過した有害化学物質数」は期間を通じて減少傾向にあるものの、目標を達成できなかった。一方、ダイオキシン類の発生抑制に留意して市施設の焼却炉を運転するなど、安心して生活できるまちづくりに取り組んだ

環境要素 9：産業

目標：農・工・商の調和するまち

全体の数値目標：環境マネジメントシステム導入事業所数 300 事業所



《本年度》

【評価】目標を達成できなかった

【評価の理由】市内の ISO14001 規格取得事業所が増加しなかったため

【目標の確認のための取組】市内の ISO14001 規格取得事業所の調査による

項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	目標値
環境マネジメントシステム導入事業所数[事業所]	37	44	47	40	40	300

【「市の役割」の状況】

◎到達目標以上に進んだ取組の数 : 0 ○到達目標どおりに進んだ取組の数 : 2

△到達目標に届かなかった取組の数 : 1 -その他の状況の取組の数 : 7

《平成29年度の取組事例》

- ・平成29年度の環境保全型農業直接支援申請件数は0件であった。(△)
- ・さがみ農業協同組合が行う各種営農指導等を支援した。(○)

《計画期間》

【評価】ISO14001 規格取得の事業所が増加せず、「環境マネジメントシステム導入事業所数」は目標を達成できなかったが、比較的取り組みやすい「やまとエコアクション21」の普及に努めるなど、農・工・商の調和するまちづくりに取り組んだ

環境要素 10：基地

目標：航空機騒音のないまち

全体の数値目標：航空機騒音に係る環境基準の達成率 100%

《本年度》

【評価】目標を達成できなかった

【評価の理由】日米両国の条約により国が米軍に施設を提供していることに起因する航空機騒音であり、厚木基地を取り巻く騒音状況については、大きく変わっていないため

【目標の確認のための取組】毎年県発行の航空機騒音測定調査結果報告書

項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	目標値
航空機騒音に係る環境基準の達成率 [%]	0	0	0	0	0	100

【「市の役割」の状況】

◎到達目標以上に進んだ取組の数：0

○到達目標どおりに進んだ取組の数：15

△到達目標に届かなかった取組の数：0

《平成29年度の取組事例》

- ・大和市、大和市基地対策協議会、厚木基地騒音対策協議会、神奈川県基地関係県市連絡協議会による要請活動を行うにあたり、現状を踏まえ要請内容を検討した。(○)
- ・県と市で設置している騒音計による騒音測定を継続実施する。(○)

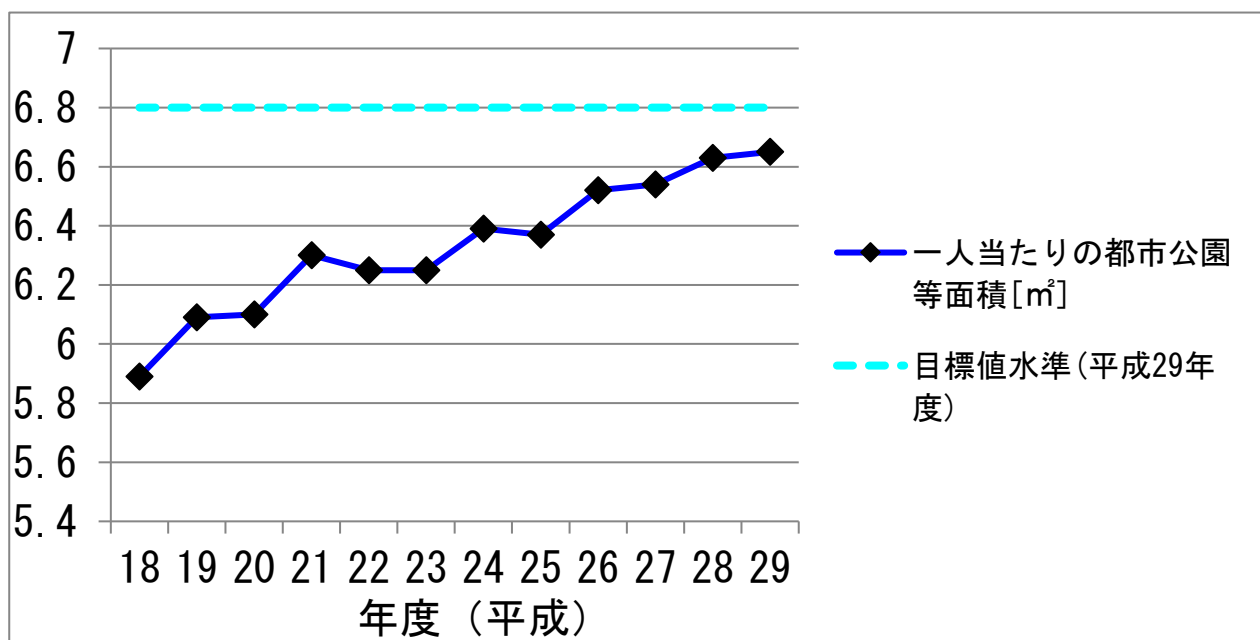
《計画期間》

【評価】計画期間における厚木基地を取り巻く騒音状況は大きく変わらず、環境基準の達成はできなかったが、騒音測定を継続し、関係機関と連携を行うとともに、要請活動を実施した。特に在日米軍再編に伴い、平成17年に国から空母艦載機移駐が示されて以降は、その実現に向けて取り組みを進めており、平成29年8月に移駐が開始され、平成30年3月に空母艦載機部隊の移駐が完了した

環境要素 11：都市空間

目標：都市空間のゆとりのあるまち

全体の数値目標：一人当たりの都市公園等面積 6.8m²



《本年度》

【評価】昨年度よりやや目標に近づいた

【評価の理由】人口の増加に応じた面積に対応している公園整備を行っているため

【目標の確認のための取組】「緑の基本計画」の目標に沿って取り組んだ

項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	目標値
一人当たりの都市公園等面積[m ²]	6.37	6.52	6.54	6.63	6.65	6.8

【「市の役割」の状況】

◎到達目標以上に進んだ取組の数 : 0 ○到達目標どおりに進んだ取組の数 : 17

△到達目標に届かなかった取組の数 : 1 - その他の状況の取組の数 : 2

《平成29年度の取組事例》

- ・公営駐輪の新規設置が困難であることから、民間事業者と協定を締結し、新たな駐輪サービス「みんちゅう」を実施した。(◎)
- ・地域住民の良好な生活環境を確保するため、開発等の事業に対する指導を行う。(○)

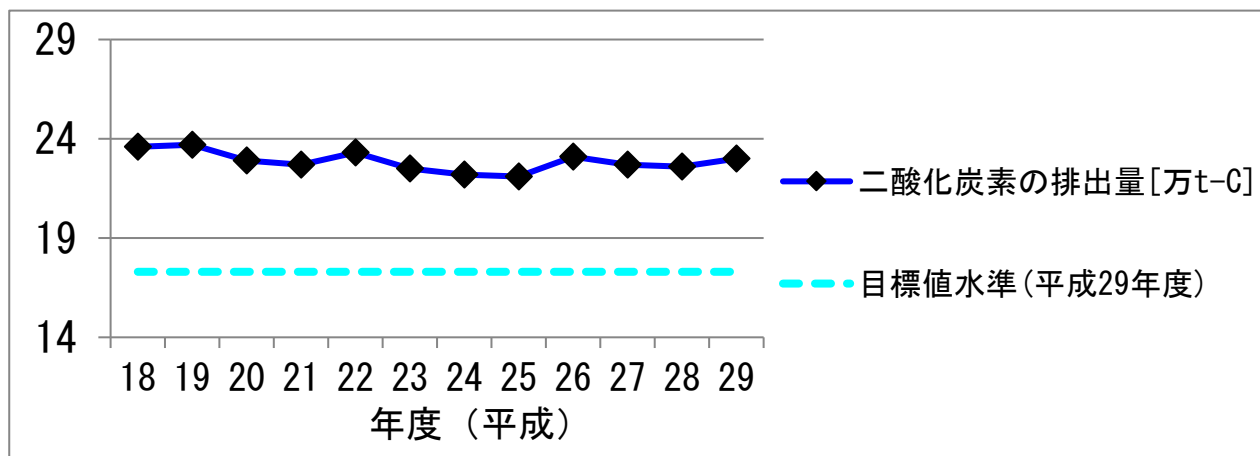
《計画期間》

【評価】都市公園等の整備を計画的に進め、「一人当たりの都市公園等面積」は上昇し続けたが、目標を達成できなかった。一方、開発事業等を行う事業者への指導やコミュニティバスの運行などを推進し、都市空間のゆとりのあるまちづくりに取り組んだ

環境要素 12：地球環境

目標：地球市民としての自覚を持って行動するまち

全体の数値目標：二酸化炭素の排出量 17.3 万 t-C



《本年度》

【評価】目標を達成できなかった

【評価の理由】二酸化炭素の排出量を減らすことができなかったため

【目標の確認のための取組】市内のエネルギー供給量調査に基づく温室効果ガス排出量算定結果(推計値)による

※ここでの二酸化炭素の排出量は、平成 20 年度以前、本市が独自に算定していたものです。平成 21 年に環境省が示した温室効果ガス排出量の算定マニュアルに沿って算定すると、温室効果ガスの排出量は 1990 年度（平成 2 年度・基準年）1,260 千 t-CO₂ ⇒ 直近の 2015 年度（平成 27 年度）926 千 t-CO₂ となっており、基準年度比 26.5%の削減となっています。

項目	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	目標値
二酸化炭素の排出量[万 t-C]	221	231	227	226	230	173

【「市の役割」の状況】

◎到達目標以上に進んだ取組の数 : 0 ○到達目標どおりに進んだ取組の数 : 10

△到達目標に届かなかった取組の数 : 1

《平成 29 年度の取組事例》

- ・省エネルギー化を促すため、やまと EMS により公共施設での省エネに関する取り組みを広めた。(○)
- ・住宅用太陽光発電システム等設置費補助及び住宅用太陽熱利用システム設置費補助により再生可能エネルギーの普及を進めた。(△)
- ・自転車通行帯を 540m 整備し、道路改良を 256m 行った。(○)

《計画期間》

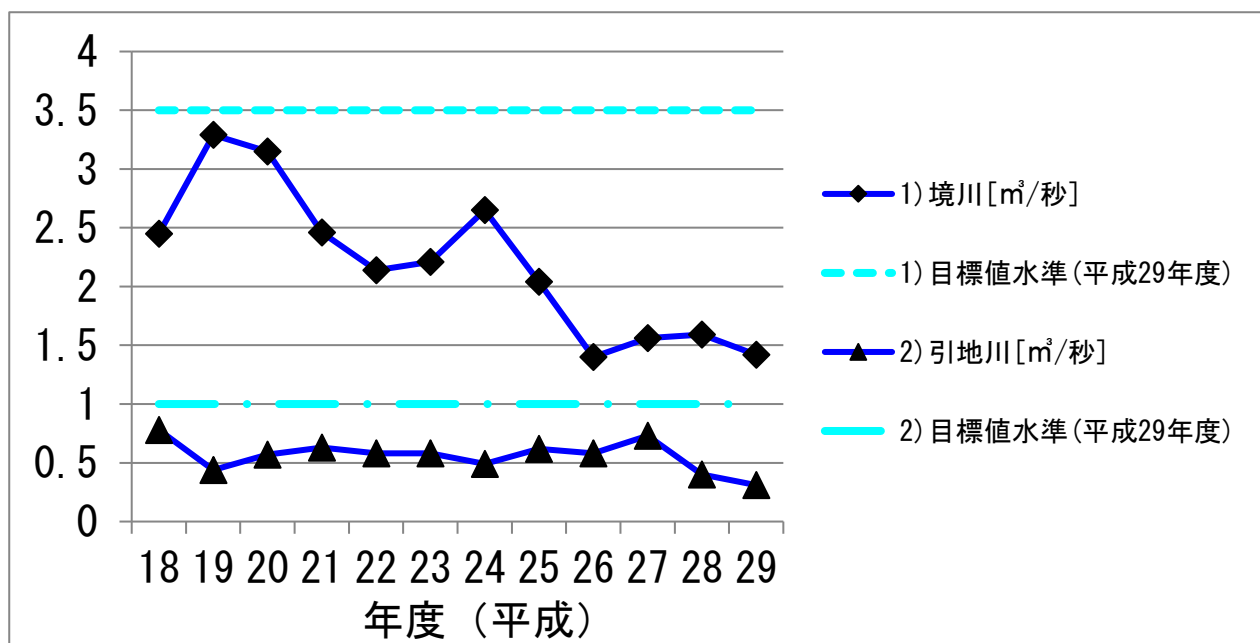
【評価】従来の算定方法では目標を達成できていないが、温室効果ガスの排出量の削減に向けて、再生可能エネルギーの普及や省エネルギー行動の推進に取り組んできたため、環境省が示したマニュアルによる算定では、平成 27 年度に基準年度比 26.5%の削減となり、20%削減という目標を達成している

環境要素 13：水循環

目標：水との親しみのあるまち

全体の数値目標：河川流量

境川 3.5m³/秒 引地川 1.0m³/秒



《本年度》

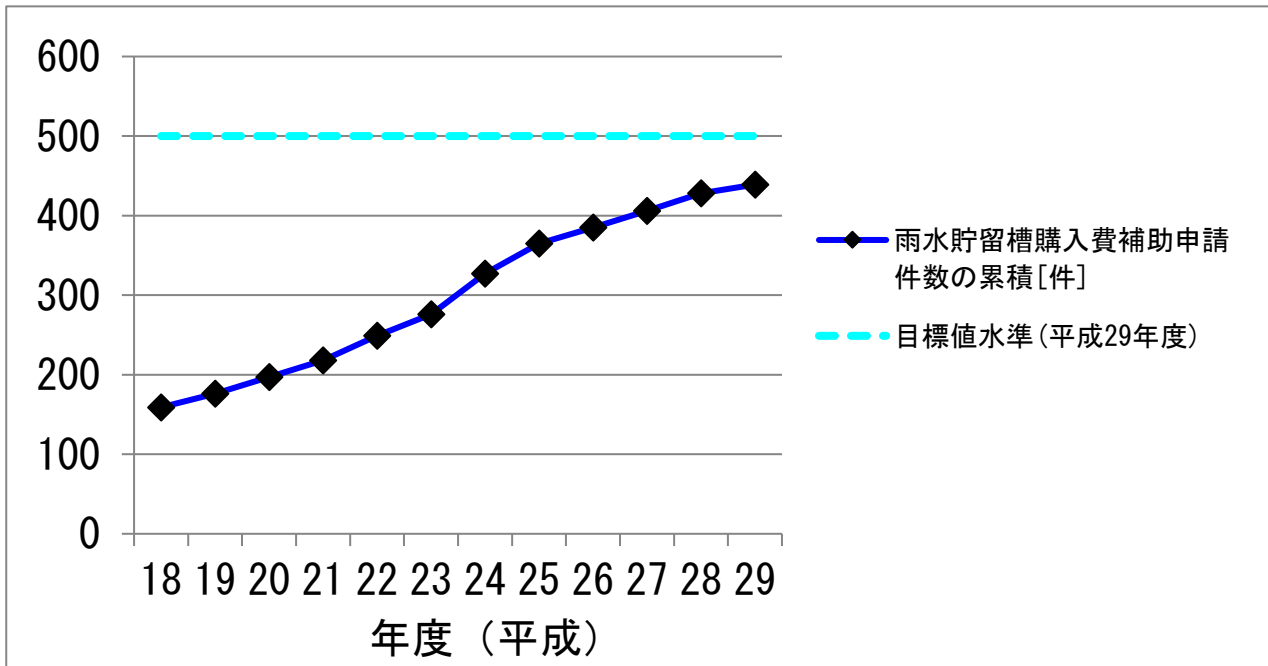
【評価】境川の流量は昨年度とほぼ変わらず、引地川の流量は昨年度よりも目標値から遠ざかっている

【評価の理由】いずれも水と親しめる空間ができていない

【目標の確認のための取組】境川・引地川の流量測定

項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	目標値
境川[m ³ /秒]	2.04	1.40	1.56	1.59	1.42	3.5
引地川[m ³ /秒]	0.62	0.58	0.73	0.40	0.31	1.0

全体の数値目標：雨水貯留槽購入費補助申請件数の累積 500 件



《本年度》

【評価】 昨年度よりやや目標に近づいた

【評価の理由】 申請基数が順調に増加しているため

【目標の確認のための取組】 雨水貯留槽購入費用補助申請件数（累計）

項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	目標値
雨水貯留槽購入費補助申請件数の累積(件)	365	385	406	428	439	500

【「市の役割」の状況】

◎到達目標以上に進んだ取組の数 : 0 ○到達目標どおりに進んだ取組の数 : 10

△到達目標に届かなかった取組の数 : 0 -その他の状況の取組の数 : 6

《平成29年度の取組事例》

- ・雨水の利用を進めるため、雨水貯留槽購入費補助制度を実施し、11基の補助申請件数があった。(○)
- ・立ち入りした19事業所について、神奈川県生活環境の保全等に関する条例、水質汚濁防止法、土壌汚染対策法に基づき、地下水汚染の未然防止等について指導した。(○)
- ・市内12地点で地下水水質調査を実施したところ、六価クロムが1地点で環境基準を超過していた。(△)

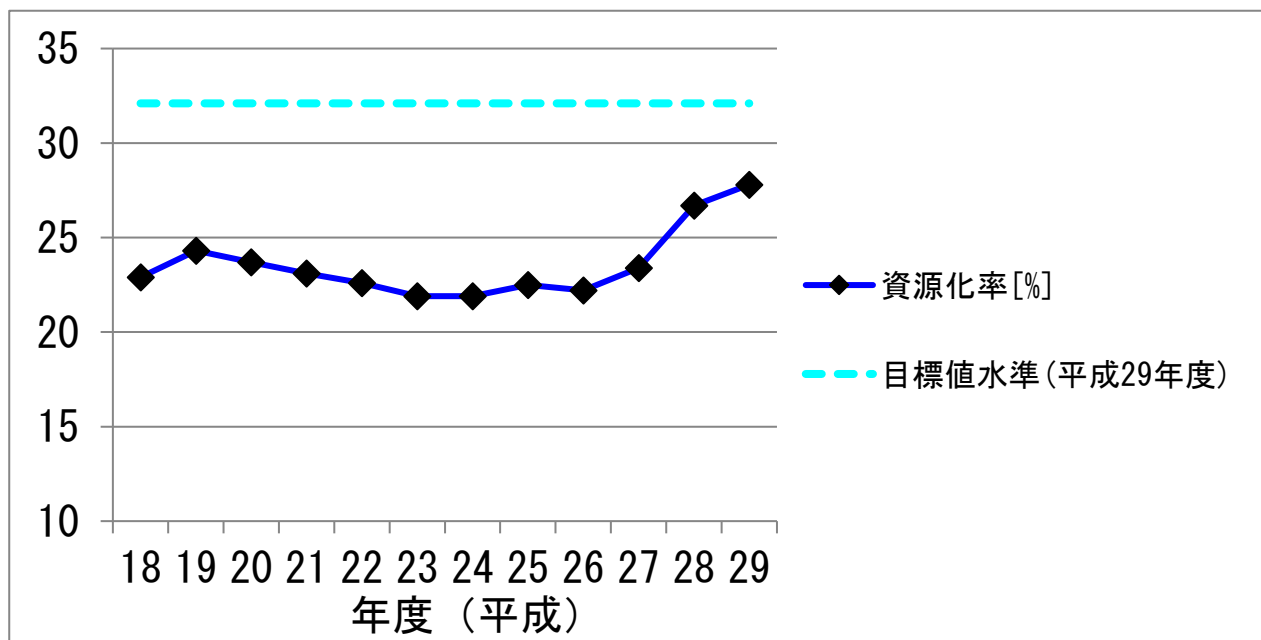
《計画期間》

【評価】 河川流量については、境川、引地川いずれも目標を達成できなかった。雨水貯留槽購入費補助の累積件数については、目標は達成できなかったものの、着実に件数を増やした。その他、節水や水の再利用を進めた

環境要素 14：資源

目標：物質循環のなされているまち

全体の数値目標：資源化率 32.1%



《本年度》

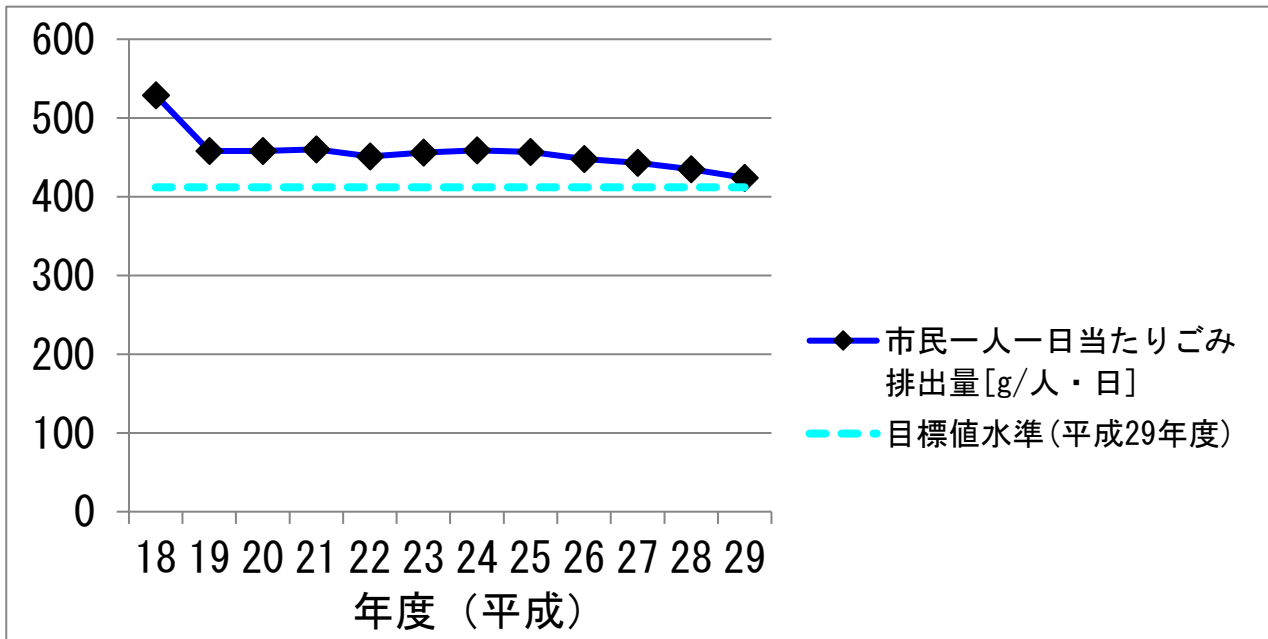
【評価】 昨年度よりやや目標に近づいた

【評価の理由】 資源分別回収について定着しつつあるため

【目標の確認のための取組】 総ごみ排出量及び総資源化量の集計

項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	目標値
資源化率[%]	22.5	22.2	23.4	26.7	27.8	32.1

全体の数値目標：市民一人一日あたりごみ排出量 412g/人・日



《本年度》

【評価】昨年度よりやや目標に近づいた

【評価の理由】ごみの減量については、市民に定着しているため

【目標の確認のための取組】総ごみ排出量及び総資源化量の集計

項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	目標値
市民一人一日あたりごみ排出量[g/人・日]	457	448	443	435	424	412

【「市の役割」の状況】

◎到達目標以上に進んだ取組の数 : 0 ○到達目標どおりに進んだ取組の数 : 28

△到達目標に届かなかった取組の数 : 1 -その他の状況の取組の数 : 3

《平成29年度の取組事例》

- ・「家庭の資源とごみの分け方・出し方」パンフレット、カレンダーにより、ごみの分別やルールなどの周知啓発を行い、不法投棄の調査指導を行う。 (○)
- ・事業系有料指定ごみ袋による排出事業者等に対して、訪問指導や啓発活動を行う。 (○)
- ・イベント開催時に、市民向けにごみ減量化に関する啓発活動を実施した。 (○)

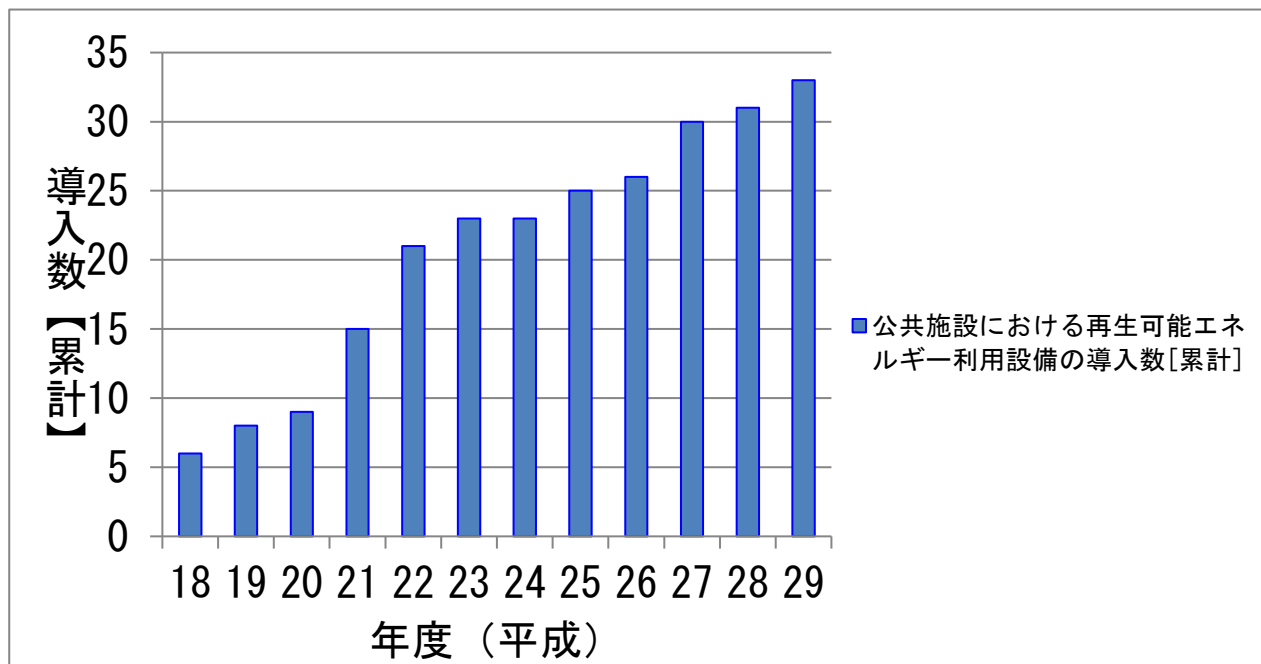
《計画期間》

【評価】資源化率と市民一人一日あたりごみ排出量はいずれも目標を達成できなかったものの、ごみの資源化を進めることにより、目標に近づくことができた

環境要素 15：エネルギー

目標：エネルギーを有効に利用しているまち

全体の数値目標：公共施設における再生可能エネルギー利用設備の導入数：全施設



《本年度》

【評価】昨年度よりやや目標に近づいた

【評価の理由】2施設に導入できたため

【目標の確認のための取組】公共施設における新エネルギーの活用状況の調査による

項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	目標値
公共施設における再生可能エネルギー利用設備の導入数	25	26	30	31	33	全施設

【「市の役割」の状況】

◎到達目標以上に進んだ取組の数：0 ○到達目標どおりに進んだ取組の数：10

△到達目標に届かなかった取組の数：0 ーその他の状況の取組の数：1

《平成29年度の取組事例》

- ・大和市コミュニティセンター緑野会館及び渋谷小学校に太陽光発電設備を設置し、公共施設において再生可能エネルギーの導入を進めた。(○)
- ・ごみ処理施設でのエネルギーの有効利用を図るため、焼却炉の稼働計画を作成し、効率的発電を実施したところ、当初計画以上の発電量を確保した。(○)

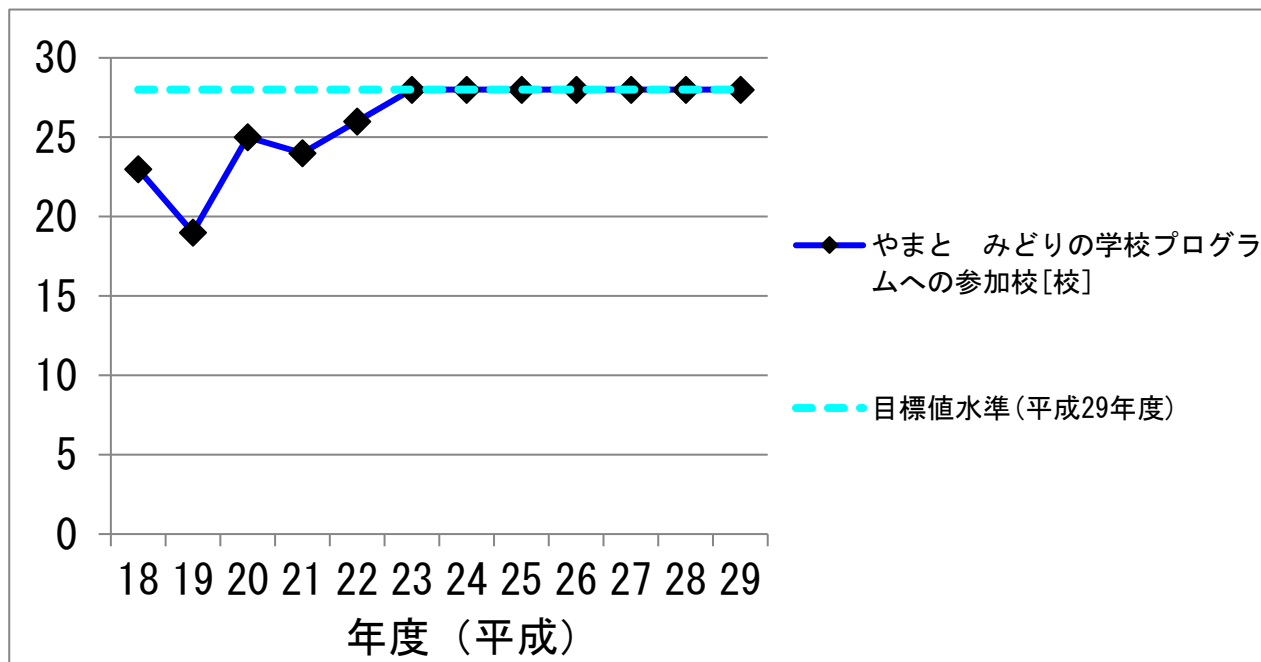
《計画期間》

【評価】公共施設における再生可能エネルギー利用設備の導入については、目標を達成できなかったが、施設の増改築にあわせて再生可能エネルギー施設を設置し、着実に件数を増やした。このほか、住宅用太陽光発電システム等設置費補助を実施し、再生可能エネルギーの普及に努めた

環境要素 16：学習・参加・協働

目標：環境にやさしい市民のまち

全体の数値目標：やまと みどりの学校プログラムへの参加校 28校



《本年度》

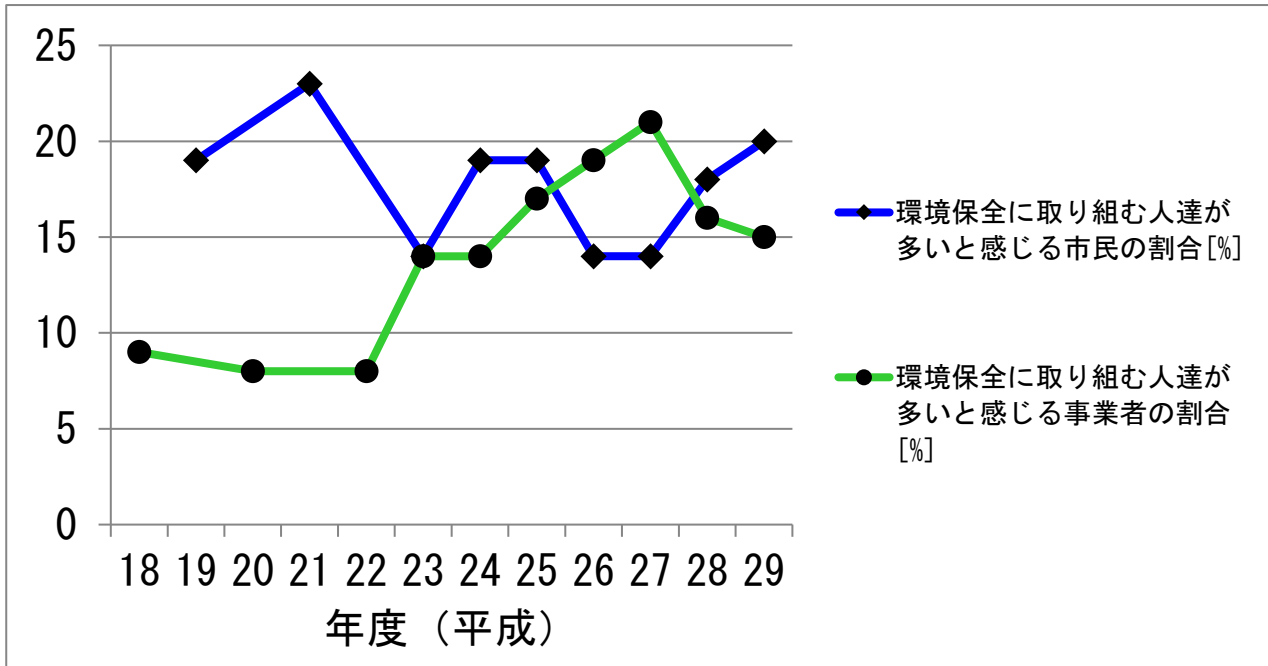
【評価】 目標を達成できた

【評価の理由】 全小中学校が参加しているため

【目標の確認のための取組】 やまと みどりの学校プログラムへのエントリーの確認

項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	目標値
やまと みどりの学校プログラムへの参加校[校]	28	28	28	28	28	28

全体の数値目標：環境保全に取り組む人達が多いと感じる市民の割合が前年度と比べ増加



《本年度》

【評価】市民の割合は目標を達成したが、事業者の割合は、目標を達成できなかった

【評価の理由】環境保全に取り組む人たちが多く感じる市民の割合は増加したが、事業者の割合が減少したため

【目標の確認のための取組】市民・事業所アンケートの実施

項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	目標値
環境保全に取り組む人達が多いと感じる市民の割合[%]	19	14	14	18	20	前年度より増加
環境保全に取り組む人達が多いと感じる事業者の割合[%]	17	19	21	16	15	前年度より増加

【「市の役割」の状況】

◎到達目標以上に進んだ取組の数 : 0 ○到達目標どおりに進んだ取組の数 : 19

△到達目標に届かなかった取組の数 : 0 -その他の状況の取組の数 : 0

《平成29年度の取組事例》

- ・総合的な学習の時間における環境学習について相談に応じ、関係各課の協力を得ながら支援した。 (○)
- ・ホームページや刊行物、市のイベント等で、環境情報の提供を行った。 (○)

《計画期間》

【評価】「やまと みどりの学校プログラムへの参加校」については、平成23年度以降、毎年度全校が参加しており、目標を達成した。一方、アンケート「環境保全に取り組む人達が多いと感じる市民の割合」は年度によってばらつきがあり、目標を達成できなかったが、市民への環境学習の機会の提供や学校での環境教育の推進などにより、改善に努めた